

# 教養教育「日本語」「日本事情」報告(2007年4月～2008年3月)

加藤扶久美

## 1 はじめに

2005年に富山大学(五福キャンパス)、富山医科薬科大学(杉谷キャンパス)および高岡短期大学(高岡キャンパス)を再編・統合し、新・富山大学となったが、学部の教養教育に関しては、キャンパスごとに実施されている。本稿では五福キャンパスにおいて、学部正規留学生を対象として開講されている教養教育「日本語」「日本事情」について報告する。

五福キャンパスの教養教育では、外国語科目として「日本語 A」「日本語 B」を、総合科目として「日本事情 I」「日本事情 II」「日本事情 III」を開講している。以下に、2007年度の教養教育「日本語」「日本事情」の実施状況について報告する。

## 2 「日本語」

「日本語 A」は学部正規留学生1年生を対象とした科目で、前学期に「日本語 A1」を、後学期に「日本語 A2」を開講している。「日本語 B」は、2年生以上の学部正規留学生と各学部から受講申請願いの出された聴講生、科目等履修生を対象とした科目で、前学期に「日本語 B3」を、後学期に「日本語 B4」を開講している。

授業では中・上級用の日本語教材、視聴覚教材、新聞や雑誌の記事を使って、四技能(聞く、話す、読む、書く)の面でバランスのとれた日本語能力の養成と、大学での学習や研究活動に十分な日本語能力の養成を目的としている。主に文法・作文中心の授業と読解・聴解中心の授業がある。

### 2.1 2007年度の実施状況

前学期は、文系クラス(人文学部・人間発達科学部・経済学部対象)の「日本語 A1」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、理系クラス(理学部・工学部対象)の「日本語 A1」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、合計4コマ開講した。「日本語 B3」は、主に経済学部の留学生を対象として月曜日3時限に1コマ、主に人文学部の留学生を対象として火曜日4時限に1コマ、全学部留学生を対象として木曜日4時限に1コマ、主に工学部の留学生を対象として金曜日3時限に1コマ、合計4コマ開講した。

後学期は、文系クラス(人文学部・教育学部・経済学部対象)の「日本語 A2」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、理系クラス(理学部・工学部対象)の「日本語 A2」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、合計4コマ開講した。「日本語 B4」は、主に経済学部の留学生を対象として月曜日3時限に1コマ、全学部留学生を対象として水曜日2時限と木曜日4時限に各1コマ、合計3コマ開講した。

### 2.2 授業科目及び授業担当者

前学期は、「日本語 A1」をセンター専任教員4人(出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、深澤のぞみ)が担当し、「日本語 B3」を学部留学生専門教育教員3人(人文学部;山崎けい子、経済学部;村上剣十郎、工学部;宮武滝太)及び非常勤講師1人(横掘慶子)が担当した。

後学期は、「日本語 A2」をセンター専任教員2人(後藤寛樹、深澤のぞみ)、学部留学生専門教育教員2人(人文学部;山崎けい子、工学部;宮武滝太)が担当し、「日本語 B4」をセンター専任教員1人(濱

田美和), 経済学部留学生専門教育教員 1 人 (村上剣十郎) 及び非常勤講師 1 人 (横掘慶子) が担当した。

## 2.3 受講者

前学期の受講者は, 「日本語 A1」が 26 人であり, 「日本語 B3」が月曜日 3 時限に 6 人, 火曜日 4 時限に 10 人, 木曜日 4 時限に 7 人, 金曜日 3 時限に 0 人であった。

所属別の内訳は, 「日本語 A1」が人文学部 6 人, 人間発達科学部 1 人, 経済学部 3 人, 理学部 1 人, 工学部 15 人であり, 月曜 3 時限の「日本語 B3」が工学部 6 人であり, 火曜 4 時限の「日本語 B3」が人文学部聴講生 10 人であり, 木曜日 4 時限の「日本語 B3」が人文学部聴講生 6 人, 人間発達科学部聴講生 1 人である。

国・地域別の内訳は, 「日本語 A1」が中国 17 人, マレーシア 6 人, 韓国 1 人, ベトナム 1 人, パキスタン 1 人であり, 火曜日 4 時限の「日本語 B3」が中国 3 人, 韓国 3 人, インドネシア 1 人, ウズベキスタン 1 人, ハンガリー 1 人, ロシア 1 人であり, 木曜日 4 時限の「日本語 B3」が中国 4 人, インドネシア 1 人, ハンガリー 1 人, ロシア 1 人である。

後学期の受講者は, 「日本語 A2」が 25 人であり, 「日本語 B4」が月曜日 3 時限に 0 人, 水曜日 2 時限に 7 人, 木曜日 4 時限に 7 人であった。

所属別の内訳は, 「日本語 A2」が人文学部 5 人, 人間発達科学部 1 人, 経済学部 3 人, 理学部 1 人, 工学部 15 人であり, 水曜日 2 時限の「日本語 B4」が人文学部聴講生 5 人, 人間発達科学部聴講生 2 人であり, 木曜日 4 時限の「日本語 B4」が人文学部聴講生 6 人, 人間発達科学部聴講生 1 人である。

また, 国・地域別の内訳は, 「日本語 A2」が中国 16 人, マレーシア 6 人, 韓国 1 人, ベトナム 1 人, パキスタン 1 人であり, 水曜日 2 時限の「日本語 B4」が中国 4 人, 韓国 1 人, ロシア 1 人, イタリア 1 人であり, 木曜日 4 時限の「日本語 B4」が中国 5 人, 韓国 1 人, イタリア 1 人である。

## 3 「日本事情」

「日本事情」は学部正規留学生を対象とした科目で, 第 2 期 (1 年生後学期) に「日本事情 I」を, 第 3 期 (2 年生前学期) に「日本事情 II」を, 第 4 期 (2 年生後学期) に「日本事情 III」を開講している。

授業では, 日本文化を体験したり, 統計資料や視聴覚教材を利用しながら, 日本の自然, 産業, 歴史, 社会, 文化, 教育等についての理解を深めることを目的としている。留学生センターの専任教員がコーディネーターを務め, 学部教員の協力を得て開講している。

### 3.1 2007 年度の実施状況

2007 年度前学期は, 「日本事情 II」を木曜日 2 時限に, 後学期は, 「日本事情 I」を火曜日 5 時限に, 「日本事情 III」を木曜日 5 時限に開講した。

2007 年度 2 年生になった学生は, 前学期開講の「日本事情 II」と後学期開講の「日本事情 III」をとることになる。また, 1 年生の学生は後学期開講の「日本事情 I」を初めて受けることになる。

### 3.2 受講者

「日本事情 I」の受講者は 35 人であった。所属別の内訳は, 人文学部 1 年生 6 人, 人間発達科学部 1 年生 1 人, 経済学部 1 年生 3 人, 工学部 1 年生 17 人, 工学部 3 年生 1 人, 人文学部聴講生 7 人である。また, 国・地域別の内訳は, 中国 23 人, マレーシア 6 人, 韓国 3 人, ベトナム 1 人, パキスタン 1 人, イタリア 1 人である。

「日本事情 II」の受講者は 23 人であった。所属別の内訳は, 人文学部 2 年生 3 人, 経済学部 2 年生 1 人, 工学部 2 年生 12 人, 工学部 4 年生 1 人, 人文学部聴講生 6 人である。また, 国・地域別の内訳は, 中国 10 人, マレーシア 7 人, 韓国 4 人, ロシア 1 人, セネガル 1 人である。

「日本事情Ⅲ」の受講者は22人であった。所属別の内訳は、経済学部2年生1人、経済学部3年生1人、工学部2年生12人、工学部3年生1人、人文学部聴講生6人、人間発達科学部聴講生1人である。また、国・地域別の内訳は、中国13人、マレーシア6人、ロシア1人、イタリア1人、セネガル1人である。

### 3.3 コーディネーターと授業担当者

前学期は、「日本事情Ⅱ」のコーディネーターを加藤扶久美が担当し、学部教員7人（石原外美、川田邦夫、黒田重靖、小松美英子、竹内章、諸岡晴美、山田茂）と非常勤講師1人（中川眸）と加藤扶久美が授業を担当した。

後学期は、「日本事情Ⅰ」のコーディネーターを濱田美和が担当し、学部教員7人（坂本麻実子、鈴木景二、竹井史、立川健治、鼓みどり、林夏生、二村文人）と非常勤講師3人（三遊亭良楽、清水星栄、経澤菁汀）と濱田美和が授業を担当した。

「日本事情Ⅲ」は、出原節子がコーディネーターを担当し、学部教員7人（飯田剛史、神川康子、久保田真功、島添貴美子、鼓みどり、堀田裕弘、水内豊和）と非常勤講師1人（淡川典子）と出原節子が授業を担当した。

### 3.4 授業内容

以下のようなテーマで授業がなされた。

#### 「日本事情Ⅰ」

|                |                 |
|----------------|-----------------|
| 坂本麻実子（人間発達科学部） | 「日本の音楽」         |
| 三遊亭良楽（非常勤）     | 「落語」            |
| 清水 星栄（非常勤）     | 「華道」            |
| 鈴木 景二（人文学部）    | 「富山の歴史と観光」      |
| 竹井 史（人間発達科学部）  | 「日本の伝承おもちゃを作ろう」 |
| 立川 健治（人文学部）    | 「日本人の身体所作」      |
| 鼓 みどり（人間発達科学部） | 「日本の美術」         |
| 林 夏生（人文学部）     | 「日本社会と漫画・アニメ」   |
| 経澤 菁汀（非常勤）     | 「書道」            |
| 二村 文人（人文学部）    | 「日本の伝統芸能」       |
| 濱田 美和（留学生センター） | 「情報収集・レポート作成」   |

#### 「日本事情Ⅱ」

|                   |                        |
|-------------------|------------------------|
| 石原 外美（工学部）        | 「日本における最近の技術者倫理教育」     |
| 川田 邦夫（極東地域研究センター） | 「日本の雪氷環境と日本海」          |
| 黒田 重靖（工学部）        | 「日本の化学と工業」             |
| 小松美英子（理学部）        | 「日本に生息するマリンベスト」        |
| 竹内 章（理学部）         | 「日本の地殻変動と海底資源」         |
| 諸岡 晴美（人間発達科学部）    | 「日本の繊維工業」              |
| 山田 茂（工学部）         | 「日本機械産業の歴史と今後の展望」      |
| 中川 眸（非常勤）         | 「日本人の食生活と健康の危機1,2」     |
| 加藤扶久美（留学生センター）    | 「異文化理解1～3」「異文化体験発表1～3」 |

#### 「日本事情Ⅲ」

|                |                   |
|----------------|-------------------|
| 淡川 典子（非常勤）     | 「人権」              |
| 飯田 剛史（経済学部）    | 「日本人の宗教」          |
| 神川 康子（人間発達科学部） | 「日本の住まい・住宅事情」     |
| 久保田真功（人間発達科学部） | 「日本の教育事情」         |
| 島添貴美子（芸術文化学部）  | 「世界の音の文化／日本の音の文化」 |
| 鼓 みどり（人間発達科学部） | 「日本の美術」           |
| 堀田 裕弘（工学部）     | 「日本における情報通信事情」    |
| 水内 豊和（人間発達科学部） | 「日本の障害児教育」        |
| 出原 節子（留学生センター） | 「異文化コミュニケーション」    |

#### 4 おわりに

五福キャンパスの教養教育においては、「日本語 A」の授業担当は、センター教員 4 人と人文・工学部留学生専門教育教員 2 人で、きめ細かな指導と学部の専門性を考慮した指導ができるようになってきている。また、使用テキスト（文法・作文中心の授業：『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク、読解・聴解中心の授業：『大学・大学院 留学生の日本語③ 論文読解編』アルク）を全学共通のものに定め、特に教養教育「日本語」の受講生があわせて受講する可能性のある日本語課外補講で用いるテキストとの間で調整を行っている。

「日本事情」に関しては、センター専任教員がコーディネートして、学部教員との連絡・調整をしながら授業を進めている。